

健康登山33:周辺の山17 (橿原市 大和三山と今井町)

コース	八木駅 2.4km/47 2.4km/37 神武天皇陵 2.2km/30	耳成山 2.0km/31 本薬師寺跡 1.8km/27 今井町案内所 2.3km/32	藤原宮跡 1.6km/32 橿原神宮 1.4km/37 八木駅	香具山 畝傍山 1.1km/23
水平距離	17.2km		断面図 縦軸：高度m 横軸：距離km	
水平換算距離	14.8km			
累計高低差	登り307m、下り307m			
標準歩行時間	4 : 56			
実績歩行時間	5 : 09			



山行報告

山行日	2008・2・07 (木)	天候	曇り時々晴れ	参加者	12名
行動	大和八木駅9:26	耳成山10:06	藤原宮跡10:47	奈良文化財研究所11:08	香具山11:31~12:21
	本薬師寺跡12:54	橿原神宮13:32	畝傍山14:04~14:20	神武天皇陵14:46	綏靖天皇陵15:08
	今井町散策15:30~16:25	大和八木駅16:35			

記録

先月、山の辺の道の大美和神社展望台で昼食をしながら眺めた大和三山に登ることにした。大和三山は藤原宮を中心とした正三角形の各頂点の位置にあり、藤原宮からは何れも2km程の距離にある。北には耳成山139.6m、南東には香具山152m、南西には畝傍山198.5mがある。大和八木駅から市街地を東へ1.2km進むと耳成山の登り口である。螺旋状につけられた道を一回りすると三角点のある山頂に着く、下山は山口神社の参道を直線的に下り登り口に戻った。ここから近鉄大阪線、JR桜井線の踏切を越えて南下すると藤原京跡の醍醐池につく。醍醐池には耳成山の姿がきれいに映るといことだが鴨の群れが水面を揺らすので見えなかった。持統、文武、元明三代の都だった藤原京跡は1km四方が保存されていて今も発掘が続けられていた。藤原京跡の東端、香具山の登り口近くにある奈良文化財研究所(都城発掘調査部)を見学させてもらった。香具山にも周回コースと直登コースがあり、直登コースを登り山頂の国常立神社にお参りしてから昼食をした。周回コースを南へ下り、予定していた昆虫館は時間の都合でパスして畝傍山を目指して西へ向かった。真っ直ぐ2kmほど歩き、近鉄畝傍御陵前駅は地下道を潜り抜け橿原神宮まで行き参拝した。途中にある本薬師寺跡には立ち寄った。畝傍山への登りは道標に従い一旦西進し西からの道との合流点から緩やかな道を辿った。山頂では樹間から金剛山系や耳成山方面がよく見えた。下山は急坂を東へ下り森林遊苑を通り抜けて神武天皇陵に参詣した。次に綏靖天皇陵を経て二つ目の目的地今井町を訪ねた。はじめに案内所でもある今井まちなみ交流センター『花曇』で説明を受けてから、江戸時代の雰囲気を今に伝える重要伝統的建造物保存地区(今井町)を見学させてもらった。今回訪ねた橿原市は飛鳥から江戸へと続く歴史を大切にされているところだった。

周辺の山 (大和三山 耳成山、香具山、畝傍山と今井町)



耳成山全景  
9:41



醍醐池から  
耳成山  
10:44



藤原宮跡から  
畝傍山  
10:49



前方の香具山  
へ向う  
10:56



香具山にて  
11:39



本薬師寺跡  
12:58



檀原神宮  
13:19



畝傍山から  
金剛山と葛城山  
14:07



神武天皇陵  
14:46



今井町散策  
16:04

名所・旧跡ミニガイド（周辺の山：大和三山と今井町）

参考資料、古代天皇の都、HP／他より

◎ 大和三山：奈良盆地南部の三体の山々「耳成山、畝傍山、天香久山」の総称です。

平成 17 年 7 月 14 日、国の名勝に指定されました。

【大和三山の歌】

『香具山は 畝火<sup>いにしえ</sup>ををしと 耳梨と 相あらそいき 神代より かくにあるし  
古昔も 然<sup>しか</sup>に あれこそ うつせみも 孀<sup>つま</sup>を あらそうらしき』

（万葉集巻 1—13 中大兄皇子）

「ををし」=「畝火雄雄し」(男神)又は「畝火を愛し」(女神)と読む二説あるが、一般に畝火山は女神、香久山と耳成山は男神とされます。

大和三山の神が恋争いをしたという歌です。(畝傍をめぐって香具と耳成が争う) 中大兄皇子と額田王、大海皇子の三角関係を大和三山に託したと言う説がある。

◎ 耳成山 : 139.6m 三等三角点。死火山。盆地の陥没で山の頭部だけ残ったそうです。

耳無、耳梨とも書く。クチナシの木が多いので「梶子山」とも呼ばれた。耳無の語源は山に余分なところ「端くれ/耳」が無いところから来ているとか。

古代より神体山として仰がれ、山に坐す神が天つ神であることから天神として山麓から拝んでいたようです。東麓の米川には天神橋が架かっています。

【耳成山の縷児悲話】

昔、三人の男が 1 人の娘(縷児)に求婚したが、「3 人の心を和らげたいことは、石のように堅い」と「耳無池」のほとりを、さ迷い歩き、縷児は水底に沈んだ。

男達はあまりの悲しさにたえず、夫々の想いを述べて歌にした。(万葉集に編纂)

1) 耳無しの 池し恨めし 吾妹子が 着つつ潜かば 水は涸れなむ  
(巻 16—3788)

2) あしひきの 山縷の児 今日行くと 吾に告げせば 早く来ましを  
(巻 16—3789)

3) あしひきの 玉縷の児 今日のごと いづれの隅を 見つつ来にけむ  
(巻 16—3799)

◎ 耳成山口神社：祭神は大山祇神・高皇産靈神〔山の神・天地生成の神〕

創建は天平 2 年(730)、正倉院書物に見えるそうです。

明治以前は天神社とよばれた。耳成山 8 合目付近に東向きに建っている。

◎ 耳成山の蛭石(鼠の糞)：耳成山口神社玉垣のそばの「榊」の根元から黒褐色の土の塊が出る。「ねずみ」の糞に似ていて、火に焙ると伸縮するので蛭石とも云われている。安産祈願のご利益があるとか、妙薬として飲まれていたこともあったらしいです。

◎ 藤原宮跡：日本最初の条坊都市「藤原京」の中心です。唐の長安を模して造られた。大和三山に囲まれた平野に1km四方の「宮」が造営されました。三山が重要な立地条件の役割であったと考えられています。

「藤原京城」は東西約5.3km南北約4.8kmで三山を内に含む規模で25km<sup>2</sup>あり「平城京24km<sup>2</sup>」、「平安京23km<sup>2</sup>」をしのぎ、古代最大の都市でありました。

天武天皇が計画、持統天皇4年(690)着工、100年間続いた飛鳥京から、694年に遷都されました。藤原宮は和銅3年(710)平城京に遷都されるまで、持統、文武、元明の三代16年間に亘る宮跡で、特別史跡として保存されています。

◎ 天香久山：標高152m、橿原市の公式使用は「香久山」「天香久山」とされています。

(万葉集では天香具山)「天から降ってきた山」神聖なる山として崇められ「天」の字が付いている。三山の中で最も聖なる山だが、山容が判りにくい。多武峰を含む龍門山系の支脈の山裾部分が大和盆地に下り、侵食に耐えた部分が、独立峰に見えるようになったと云われています。

【神武東征】神武天皇がいよいよ大和に入ろうとした時、八十建<sup>やそたける</sup>が立ちほだかる。

『天香山<sup>あまのかぐやま</sup>の社の「土」を持ち帰って、それで天平瓮<sup>あまのひらか</sup>(供物皿)を八十枚、巖瓮<sup>いつへ</sup>(神酒用の瓶)を造って天神地祇を祀れば、きっと平定する事が出来る』と天つ神のお告げがあった。その通りすると、敵を滅ぼすことが出来た。天皇が無事に大和を平定できたのはこのお告げのおかげと、日本書記にあります。

◎ 国常立神社(香久山)：

祭神 国之常立神：天地創造時代から国土を形成しつつあるとき生まれた神。(神代七代の最初の神で国を治める神。七代目がイザナギ、イザナミの夫婦神)

祭神 高竈神<sup>たかおかみのかみ</sup> (高於加美神=闇於加美神/貴船神社と同神) 香具山竜王と呼びされた。

イザナギ、イザナミ夫婦神が最後に生んだ迦具土神<sup>ほのかぐつちのかみ</sup>(火之迦具土神)は火の神で、火傷がもとで、イザナミ神はついに亡くなった。怒ったイザナギ神は十拳<sup>とつかのつるぎ</sup>剣で迦具土神の首を切り落とした。このとき、剣に着いた血から六神、柄の指の間から漏れた血で、高於加美神と闇御津羽神の二神の計八神が、イ

ザナミ神の死後に生まれた。山頂にはこのタカオカミ神が祀られています。

◎ 天香久山神社：祭神 櫛真知神(櫛真命)でト占の神様。

【波波迦の木】(朱 桜 またの名をうわみずざくら)

天香山の牡鹿の肩甲骨を、天香山の波波迦の木の皮で骨を焼き、骨のひび割れを見て占ったそうです。平成2年の大嘗祭儀式に、この木の皮が奉納されました。

【天真名井】本殿右手にある井戸(宮崎県高千穂に本家?天真名井があります)

天照大神と素戔鳴尊が天安河(あまのやすかわ)で宇気比(うけひ) (誓約)の時、天真名井で十拳剣と八尺の勾玉をすすぎ、噛み砕いて噴出すと、スサノオの剣から三女神(宗像三神)が、アマテラスの勾玉から五柱の神(最初の神が瓊瓊杵尊(にぎのみこと)の父神)が生まれた。

◎ 国見の丘(香久山)：34代舒明天皇(じよめい)が国見をしたところ。大和の国見の歌碑がある。

当時奈良盆地には、広大な淡水湖が存在していた事がありました。このことは遺跡群や歌からも推測されています。ここから見る落日は絶景と云われています。

◎ 天岩戸神社：祭神、天照大神

天照大神が幽居したと伝わる岩穴(天石窟)を拝し、神殿は有りません。

延喜式の「坂戸神社」で祭神は亀津比売命(亀トの神)。俗に「亀の岩戸」と言われたのが転化して「天の岩戸」になったらしいそうです。

玉垣内の真竹は七本竹(女笹竹)と言い、毎年七本ずつ生え変わる。この竹に触ると腹痛になると云われています。

【湯笹明神】天岩戸神社南東100mの所に祀られている。

天宇受売命(あめのうずめのみこと)が天香具山の笹の葉を、手草にして岩窟の前で踊った舞台。この笹の葉は「湯笹」(斎笹)とも呼ばれ女笹のこと。この竹は「四方竹」と云い天然の四角い竹でざらざらしている、手に触れると腹痛が起こると云われる。

◎ 畝尾都多本神社：祭神：啼沢女命(ななきわめのみこと)。神殿は無く拝殿のみ。ご神体は『井戸』。

イザナミ神が火の神(迦具土神)生んだため亡くなる。このときイザナギ神は嘆き、そのとき流れた涙が「泣沢女神」として、香山畝尾の木の本に坐す。古来この神社の境内全体を「泣沢の森」と云い、「埴安の池畔」にあって水神であり、また長寿延命の神として仰がれていたようです。

◎ 畝尾坐健土安神社：祭神：健土安比売命(たけつにやすひのみこと) (波邇夜須毘売神)・天児屋根命

ハニヤスヒメはイザナミ神が火傷で苦しんでいる時、尿から生まれた神。

波邇夜須<sup>はにやす</sup>は埴粘<sup>はにやす</sup>のことで土器を作る粘土です。

香久山の土は、霊力、呪力のあるものとして、神聖なものでありました。

香久山神社境内に「赤埴聖地」が、国見台付近に「白埴聖地」が、神社東南の赤埴山と呼ばれる、小さな丘に「埴安伝承地」の碑があります。

- ◎ 埴安<sup>はにやす</sup>の池：香久山西麓にあって、かなりの大きさがあったようです。  
字名<sup>あざな</sup>(地名)に北浦、東浦、南浦、カノ浦、島廻など水辺の地名があるそうです。奈良盆地の1万年前は「海水湖」でその後、水は引き始め奈良時代に干上がったとされます。舒明天皇が香久山で歌った「海原」はこの「盆地湖」を歌った説がある。また『埴安の池』は盆地湖の引き残りであったと云われています。明治17～18年に埋め立てられました。  
埴安の地には、高市皇子<sup>たけちのみこ</sup>の宮殿もあったそうです。殯<sup>もがり</sup>(葬式)もここで行われた。
- ◎ 法然寺：香久山少林院法然寺、浄土宗、法然上人霊蹟25霊場の十番札所。  
香久山を背景に鎌倉期の美しい庭園があります。(拝観は志納金)
- ◎ 紀寺跡：紀氏の氏寺。藤原京造営以前七世紀後半に創建された古寺。  
藤原京の左京にそびえていた。寺域は一辺240m、塔、金堂、講堂が一直線に並ぶ「四天王寺式」の伽藍配置。都が平城京に移転すると共に、寺も移転しました。
- ◎ 上飛驒町：日高山横穴群6基があったが消滅した。  
大和地方の横穴墓群は、斑鳩、橿原市、龍王山(約300基)の三箇所と数が少ない。  
平成13年上飛驒町で、8世紀初頭の大型建造物跡と、大量の木簡が見つかる。藤原宮の門を警備する役所「衛門府」が、宮を囲む大垣の外に置かれていた可能性が強まり木簡群で結論つけられました。
- ◎ 飛驒町：飛驒は稗<sup>ひだ</sup>田で、飛田、日田、日高、比田、肥田、斐田、疋田、飛駄、飛弾などと書かれ、奈良や伊勢に降りた人々が、地名にその名を残しました。  
藤原京造営の時飛驒の匠が招集され、長く住んでいて、出身国名を居住地に使った名残だそうです。稗田は「ひえだ」と呼ばず「ひだ」と云うそうです。  
子孫の阿禮清一氏が、飛驒三日町(高山市)に住んでおられるそうです。

古事記の稗田阿禮は2千数百年前、幻の飛驒王朝(岐阜県位山に拠点)が滅亡したのち、「飛驒の榎谷<sup>ならだに</sup>」に住んでいた。飛驒と都の往来役人の宿所であった峠口の榎谷で、夜話の物語を形象文字で書いていたので、都に招かれ、語部<sup>かたりべ</sup>

になり、大野安麿が漢字でその音を写したのが『古事記』となりました。

飛騨王朝の頭首は『両面宿儺<sup>りょうめんすくな</sup>』という超人で、仁徳朝大和では、朝廷に反発する怪人として征伐されました。飛騨の千光寺に「円空仏の両面宿儺像」がある。

円空は江戸中期岐阜出身、生涯 12 万体の仏像を刻んだと伝えられています。

- ◎ 本薬師寺:天武9年(608)に皇后(後の持統天皇)の病気治癒のため発願した事に始まる。天武天皇崩御の後、持統2年(688)に此処で仏事を行われています。大管大寺、豊浦寺、飛鳥寺、川原寺と共に五大寺でありました。発掘調査から藤原京以前(天智朝)に遡ることが判っています。伽藍配置は平城京薬師寺と同じだそうで、養老2年(718)平城京に移されて西ノ京薬師寺となりました。検証によると、平安後期の日記に、何らかの伽藍が残っていたと考えられる記述があり、移築後も寺は存続していたようです。春5月にはレンゲ畑が広がり、夏8～9月(見頃8/中～9/初)はホテイアオイの大群落にハイカーは驚愕するようです。

- ◎ 東大谷日女命神社(畝傍山):祭神 媛蹈鞰五十鈴媛命(神武天皇皇后)江戸時代は熊の権現と称していた。[東]の読みは東漢氏が祀った東と、畝傍山の東の大谷に祀った東<sup>ひがし</sup>の二つの呼び名があります。明治時代に祭神は神功皇后とされたが再度変更されて、現在の祭神は神武天皇皇后になっています。

- ◎ 畝傍山 : 198.6m 三等三角点があり死火山。畝火、雲根火、雲飛とも書かれる。畝火とは「火がうねる」の意味があるとか。火山岩が侵食されその一部が残された侵食地形の山です。また山名は寺名で呼ばれ「慈明寺山」とも一時云われていました。北東山麓に雲飛山慈明寺(曹洞宗)があり、大和郡山藩主、慈明寺順国(筒井氏の祖)の出身地で、影響が強かったのでしょう。

【櫻児伝説】耳成山の「縷児悲話<sup>かづらこ</sup>」に似ている話で二人の男が櫻児(娘子<sup>おとめ</sup>)を恋しく想い、命を懸けて競い合った。櫻児は涙を流して「今二人の心を鎮めようもない、私が死んで二人の争いが収まるのが一番良い」、櫻児は林の中に入り木に首を吊って死んだ。二人の男は悲しみ、血の涙を襟に垂らして、それぞれの思いを述べて歌を作った。

1) 春さらば挿頭かざしにせむと わが思いひし 櫻の花は 散りにけるかも

(巻 16-3786)

2) 妹が名に 懸けたる櫻 花さかば 常にや恋ひむ いや年毎に(巻 16-3789)

◎ 畝傍山はにとりの埴取：大阪、住吉大社は2回/年、神事に使う土器を作るため、畝傍山はにに「埴」を取りに来る神事がある。山頂に玉垣に囲まれた採取場所があり、そこから「鼠の糞」のようなものが土に混じってくる、これを混ぜて神器とするそうです。麓の畝火山口神社では安産のお守りとして、授与していたそうです。

◎ 畝火山口神社：祭神 氣長足姫尊おきながたらしひめのみこと (息長帯姫命)おきながたらしひめのみこと 又の名は、神功皇后おおたらしひめのみこと (大帯姫命) ほか豊受比売命とようけびめのみこと (食物神)、表筒男命うはつづつのおとこ (住吉大神)を祀る。

もとは山頂にあったが昭和15年(皇紀2600)この地に遷座された。

[安産守護]

◎ 畝傍山周辺の天皇陵：第1代～第4代天皇、2～3代は欠史8代の内の3人です。

神武天皇陵：畝傍山東北陵うねびやまのきたがし (皇紀2600年、昭和15年盛大な式典が行われた)

綏靖天皇陵：桃花鳥田丘上陵つばなとりのかみ (桃花鳥=朱鷺のこと) (宮は葛城東麓、高丘宮)

安寧天皇陵：畝傍山西南御陰井上陵うねびやまのひつじさるみほよいのえのみさき (宮は大和高田市、片塩浮孔宮)

(陵の前にある安寧寺の井戸は「御陰井」として宮内庁が管轄、)

御陰は女性を表わし、畝傍山を女性とする根拠になっているうちの一つです。

懿徳天皇陵：畝傍山南織沙溪上陵うねびやまのみなみのまなごだにのえのみさき (宮は岡寺の見瀬丸山古墳辺り、軽曲峡宮)

◎ 今井町(樞原市)：重要伝統的建造物保存地区に指定されています。

今井町は中世に「称念寺」を中心に一向宗衆徒により作られた寺内町で、自衛のため濠を巡らし、環濠集落とした。信長の一向宗弾圧で武装解除のみでやり過ごし、江戸期に天領となった。それ以降、町は金融業を中心に栄え『海の堺、陸の今井』、『大和の金は今井に七分』などと称され発展した。

現在でも大半が伝統的町屋(5百軒/6百軒中)で、8軒が重要文化財に指定されている。集落南東にある、旧高市郡教育博物館「華薨(はないらか)」に案内マップが用意されています。

◎ 蘇武橋：飛鳥川に架かる。

1400年前、『聖徳太子』が斑鳩宮から、生誕した「橘宮」(現在は飛鳥橋寺)へ通ったときに、渡った橋。橋の袂で太子が馬に水を飲ませたと伝える「蘇武の井」が今も残っています。

◎ 大日堂：明治に廃寺となった普賢寺の本堂(重文)。堂は文明10年(1478)に上棟式が行われている。7月15日のみ御開帳の高さ2mの大日如来像(重文)がありま



す。

- ◎ 入鹿神社：廃寺普賢寺の鎮守。『蘇我入鹿』を祀る。明治時代に素戔鳴尊も祀られた。境内に大日堂があります。
- ◎ 宗我都比古神社：祭神 宗我都比古神・宗我都比売神で『蘇我氏の始祖』を祀っている。樫原市曾我町一帯は『蘇我氏の本拠地』で、蘇我氏の一族が住んだところ。